

区の目標(何をめざすのか)

子どもが輝き、みんながしあわせなまち

区の使命(どのような役割を担うのか)

区民一人ひとりの人権が尊重される社会の実現を基本に、「みんなで子どもを育てるまち」「みんなが健康で安心して暮らせるまち」「みんながつながるまち」に取り組む。

令和4年度 区運営の基本的な考え方(区の方針)

- 「子どもたちのゆめを広げる」「子育てのまち・教育のまちにする」「みんな健康で元気になる」「不安ゼロのまちにする」「互いの顔を知っているまちにする」「困ったときはお互い様のまちにする」という6つの視点に基づく施策を推進する。
- 「都心にほど近い、便利な暮らし」「穏やかで地に足ついた、ゆとりある暮らし」「農とスポーツのある、健康的な暮らし」「長居公園のある暮らし」という4つのめざす暮らしのあり方の実現のため、大学や企業等と連携した取組を実施する。
- 区民の区政への関心を高め、区政に区民の意見を反映する。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に留意しながら、市民サービスの維持向上に取り組む。

重点的に取り組む主な経営課題(様式2)

経営課題1 みんなで子どもを育てるまちづくり

経営課題の概要	主な戦略
子育てや教育に様々な人や団体等が関わることで、子育て教育環境が良い、みんなで子どもを育てるまちにする。	【1-1】子育て支援 【1-2】教育支援
主な具体的取組(4年度算定見込額)	
<ul style="list-style-type: none"> 【1-1-1】子育て家庭への支援(24,489千円) 東住吉区子育て支援連絡会との協働による子育て施策の展開及び情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> 【1-2-1】ニーズに応じた学校への支援(9,651千円) 障がい児童支援員によるサポート、民間講師や魅力ある学校づくり応援団制度の活用等による学校への支援を実施

経営課題2 みんなが健康で安心して暮らせるまちづくり

経営課題の概要	主な戦略
健康づくり・防災・防犯に様々な対策がとられ、区民の意識が高く、みんなが健康で安心して暮らせるまちにする。	【2-1】健康に暮らせるまちづくりの推進 【2-2】安心して暮らせるまちづくりの推進
主な具体的取組(4年度算定見込額)	
<ul style="list-style-type: none"> 【2-1-2】福祉相談ネットワークの強化(50,618千円) 区内14地域の「地域相談窓口」に地域福祉サポーターを配置し、相談対応を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 【2-2-1】防災力の強化(4,913千円) 地域の自主的、自律的な防災訓練の支援等を実施し、自主防災組織の機能強化を図る。

経営課題3 みんながつながるまちづくり

経営課題の概要	主な戦略
区民相互が交流と助け合いを行い、地域の自主的なまちづくり活動が活発に行われている、みんながつながるまちにする。	【3-1】区民相互のつながりづくりへの支援 【3-2】地域活動協議会による自律的な地域運営の促進
主な具体的取組(4年度算定見込額)	
<ul style="list-style-type: none"> 【3-1-1】区民相互の交流活動への支援(10,613千円) 様々な地域団体や企業等の参画のもと地域ニーズに対応した手法で事業を実施し、区民相互の交流活動をサポート 	<ul style="list-style-type: none"> 【3-2-1】地域の自主的なまちづくり活動への支援(43,459千円) 地域の実情やニーズに合わせた広報等の実施や地域の担い手の知識・技術の習得・向上の促進策をはじめとする地活協への支援

経営課題4 区民と共に創るまちづくり

経営課題の概要	主な戦略
区民の区政への関心が高く、区民の意見を反映した区政運営がされるまちにする。	【4-1】区政情報の広報 【4-2】区民の意見を反映した区政運営の実現
主な具体的取組(4年度算定見込額)	
<ul style="list-style-type: none"> 【4-1-1】広報媒体と内容の充実(26,187千円) 広報紙やホームページと公式SNSを連携させ、相互の情報をクロスメディア手法により効果的に発信 	<ul style="list-style-type: none"> 【4-2-2】区民等の参画と協働(3,088千円) 区政会議をはじめとした区民等の参画と協働による区政運営

「市政改革プラン3.1」に基づく取組等(様式3)

主な取組項目	取組内容
【取組項目1】 国民健康保険料の収納率向上 (改革の柱3-3(4))	<ul style="list-style-type: none"> ・現年度滞納者を中心に納付督促及び財産調査を実施 ・差押予告の送付、滞納処分の強化 ・新規加入者への保険証交付時に口座振替勧奨
【取組項目2】 次代を担う職員の育成 (改革の柱5-1)	<ul style="list-style-type: none"> ・「東住吉区おもてなしプロジェクト」を継続実施し、各課を横断した全職員の意識向上の取組を推進 ・職員の対応力向上に向けたスキルアップ研修の実施
【取組項目3】 働きやすい職場環境づくり (改革の柱6-1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク・ライフ・バランス推進期間の設定及び超過勤務の縮減(ノー残業デーの追加など) ・ワーク・ライフ・バランス推進委員会を通じた育児・介護・病気の治療と仕事の両立にかかる各種制度の周知徹底及び啓発

◆自己評価

1年間の取組成果と今後取り組みたいこと

・「東住吉区将来ビジョン(2021-2025)」に掲げた「みんなで子どもを育てるまち」「みんなが健康で安心して暮らせるまち」「みんながつながるまち」の実現に向け、4つの経営課題「みんなで子どもを育てるまちづくり」「みんなが健康で安心して暮らせるまちづくり」「みんながつながるまちづくり」「区民と共に創るまちづくり」に沿った取組を進めた。

・区民フェスティバルをはじめとする区民全体を対象とする事業や子育てOHえんフェスタ等の子育て層を対象とした各種事業についても、感染予防対策として手法や開催場所の工夫を行うことで実施できた事業が増えた。一方で、実施困難であった事業もあり、年度当初の目標を達成できなかった取組もあった。コロナウイルス感染症が感染症法の5類に移行することから、段階的にコロナ禍以前のベースで事業を実施し関係機関等への支援を行っていく。

解決すべき課題と今後の改善方向

・感染予防対策を講じながら事業を実施することで、事業への参加を控えていた方や地域事業が自粛され自宅に引きこもっていた方が安心して参加できる環境の整備を行い、より多くの方に事業への参加や区政への関心の向上へつなげる。地域や関係機関と協働し、「みんなが健康で安心して暮らせるまちづくり」「みんながつながるまちづくり」に取り組む。

・区民が求める情報が年代やライフステージなど個々の状況により異なり、情報の収集方法も様々であるため、引き続き広報紙やホームページ、SNS等を連携させた幅広い区政情報の発信が求められる。広報紙については幅広い年代の方が手に取ることが想定されるため、より親しみやすい魅力的な紙面づくりに継続して取り組み、区の魅力を発信していく。



経営課題 1 みんなで子どもを育てるまちづくり

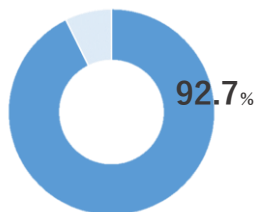
めざすべき将来像(最終的なめざす状態) < 概ね10~20年間を念頭に設定 >

子育てや教育に様々な人や団体等が関わることで、子育て教育環境が良い、みんなで子どもを育てるまち

子育て支援

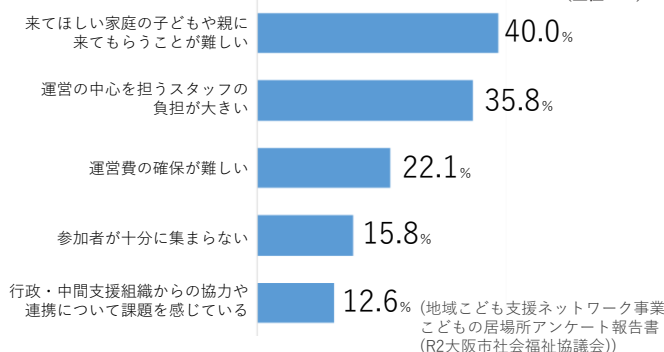
現状 < 課題設定の根拠となる現状・データ >

子育てについて相談する人(場所)がいる(ある)と感じる区民



(令和3年度子育て世帯向け区民アンケート)

「子どもの居場所活動」に取り組んでいる団体が運営にあたり感じている課題(上位5つ)



要因分析 < めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果 >

【子育て家庭への支援】

- 子育てに不安や負担を感じている人が気軽に周囲に相談できず、地域で孤立する傾向にある。

【子どもの居場所づくり】

- 子どもの居場所を運営または開設を検討している地域の団体等は、活動内容によって異なる様々な課題を抱えている。

課題 < 上記要因を解消するために必要なこと >

【子育て家庭への支援】

- 子育てに不安や負担を感じている人が孤立しないように、関係機関等と連携し、状況に応じた適切な支援・相談・情報提供等を行う必要がある。

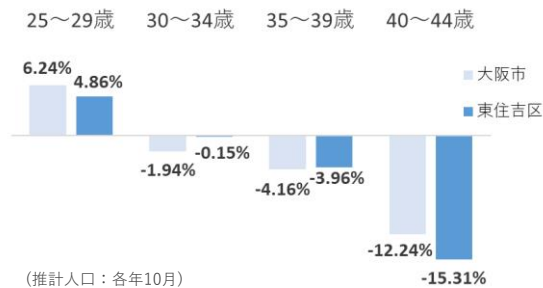
【子どもの居場所づくり】

- 運営または開設を検討している地域の団体等に対し必要なサポートを行うことで、居場所の充実と実施箇所数増を図る必要がある。

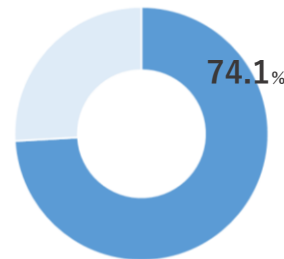
教育支援

現状 < 課題設定の根拠となる現状・データ >

人口増減(H29→R3)



将来の夢や目標を持っている子ども



(子どもの生活に関する実態調査(H28))

要因分析 < めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果 >

【ニーズに応じた学校への支援】

- 子育て世帯にとって魅力ある資源が十分に活用されていない。

【子どもの学習・体験機会の充実】

- 子育て世帯が住み続けたいと思える、まちの魅力の発信が不足している。

課題 < 上記要因を解消するために必要なこと >

【ニーズに応じた学校への支援】

- 学校との連携を深め学校運営に地域の実情を一層反映させていくなど、地域や区が持つ教育資源を活用した取組が必要である。

【子どもの学習・体験機会の充実】

- 子育て世帯に関心の高い分野において、子どもに学習や体験ができる機会を提供し、区の魅力として積極的に発信する必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

関係機関と連携した子育て支援、地域資源を活用した教育支援等の具体的な取組が子育て層の不安や負担の軽減に繋がっており順調に進捗している。また体験・学習機会の提供や発達障がい等にかかる支援が教育内容の充実及び教育環境の整備へと繋がっている。

【保健福祉課】(福祉)・子育てする中で孤立することを防ぐため、区内の子育て支援関係機関と協働し、年4回の親子での交流イベントを開催することができた。新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、予防対策を徹底して実施したこともあり、安心して参加してもらうことができ、全てのイベントにおいて100%の参加者が満足した、という結果になった。引き続き、子育て支援関係機関と連携を図り、交流イベント、子育て情報誌の発行等を通じ地域で孤立することなく子育てできる支援を充実させていく。

(保健)・コロナ禍により事業実施が順調に行えたとは言えないが、一部事業を除き、概ね目標数値に達したと考える。

来年度はコロナウイルス感染症が感染症法の5類に移行することから、段階的にコロナ禍以前のペースで事業実施の再開が出来るものとする。

【区企画課】

発達障がい精通した支援職員によるサポートや「教育活動サポート事業」による学校への支援を実施し、目標を達成することができた。引き続き、各学校の課題やニーズに応じた教育活動支援に取り組むとともに、子どもに体験や学習ができる機会を提供し、子育て世帯が住み続けたいと思える取組を図る。

めざす成果及び戦略 1-1

【子育て支援】

めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>

安心して子育てができる状態

戦略<中期的な取組の方向性>

- 区内の子育て支援関係機関等と協働して、同世代や異世代間の交流を支援し、子育てにかかる情報提供が子育て世帯に行き届くようにする。
- 子育てのしづらさや発達障がい(疑い)がある親子を早期発見し、早期に療育が受け入れられる体制を、地域の関係機関や事業所と連携しながら引き続きとるなど、状況に応じた適切な支援・相談・情報提供を行い、子育てに対し不安や負担の軽減を図る。

具体的取組 1-1-1

子育て家庭への支援

2決算額 18,601千円 3予算額 24,329千円 4予算額 24,489千円

当年度の取組内容

- 東住吉区子育て支援連絡会との協働による地域との交流事業を年度内に4回程度実施し子育て情報の提供を行う
- 子育て支援コーディネーターによる未就学児訪問と虐待を予防する機運を高めるため啓発活動の開催
- 4名の家庭児童相談員による養育者への相談体制の充実
- 親子サロンを利用した地域妊産婦教室

プロセス(過程)指標

<取組によりめざす指標>

- ①地域との交流事業に満足した参加者：80%以上
- ②親子サロンが交流の場となっていると感じる参加者(保護者)：60%以上

【撤退・再構築基準】

- ①50%未満かつ②40%未満

当年度の取組実績

- 東住吉区子育て支援連絡会との協働による地域との交流事業を年4回実施し、子育て情報の提供を行った。(赤ちゃんも一緒に親子でクラシックコンサート年2回、東住吉区子育てOHえん2022～リトルフェスタ～年2回)
- 子育て支援コーディネーターによる未就学児訪問、虐待を予防する機運を高めるため地域での啓発活動
- 4名の家庭児童相談員による養育者への相談体制
- 「親子サロン」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあったが、107回開催、596人の参加を得た。

プロセス(過程)指標の達成状況

- ①地域との交流事業に満足した参加者：100%
- ②親子サロンが交流の場となっていると感じる参加者(保護者)：69.8%

目標の達成状況

取組の進捗状況

戦略に対する取組の有効性

課題と改善策

中間

年度末	達成	予定通り実施	有効であり、継続して推進	・観音型に加えて体験型の交流の機会を増やす。
-----	----	--------	--------------	------------------------

前年度までの実績

(令和3年度)

- 東住吉区子育てOHえんフェスタ・赤ちゃんコンサートの開催。子育てファミリー運動会は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止
- 子育てOHえん情報誌の配架約170か所(主要8駅含む)毎月約2,500部

アウトカム(成果)指標
<めざす状態を数値化した指標>

前年度

今年度

個別評価

全体評価

子育てについて相談する人(場所)がいる(ある)区民：令和7年度末時点で90%以上

92.7%

93.5%

順調

順調

戦略の進捗状況

順調

戦略のアウトカム指標に対する有効性

課題

有効であり、継続して推進

今後の対応方向

-

-

具体的取組 1-1-2

子どもの居場所づくり

2決算額 3,166千円 3予算額 3,519千円 4予算額 60千円

当年度の取組内容

- 子どもの居場所の運営者間の連絡会議や情報交換・交流といったネットワークを継続・発展させ、子どもの居場所の必要性や効果について積極的な広報や啓発を行う。
- 地域において子どもを見守り、支援を行うために、より早期に実態を把握、区役所・子どもの居場所・学校等が連携し、必要なサービスにつなぐことができる環境づくりを行う。

プロセス(過程)指標

<取組によりめざす指標>

「新たにつながりができた」または「相互情報交換の場ができた」と感じる子どもの居場所活動の運営者・支援者：60%以上

【撤退・再構築基準】

- 30%未満

当年度の取組実績

- 子どもの居場所連絡会議の開催(2回)
- 区役所内プロジェクトチーム会議の開催(2回)
- 居場所運営団体に対する支援情報や参考資料等の提供
- 子どもの居場所の新規開設支援
- 区広報紙やホームページでの広報

プロセス(過程)指標の達成状況

「新たにつながりができた」または「相互情報交換の場ができた」と感じる子どもの居場所活動の運営者・支援者の割合：100%

目標の達成状況

取組の進捗状況

戦略に対する取組の有効性

課題と改善策

中間

年度末	達成	予定通り実施	有効であり、継続して推進	-
-----	----	--------	--------------	---

前年度までの実績

(令和3年度)

- 居場所運営者・関係機関の連絡会議を開催(2回)
- 区役所内プロジェクトチーム会議を開催(2回)
- 居場所運営団体に対する支援情報や参考資料等の提供
- 居場所の広報及び意義の啓発にかかる講演会等の開催

めざす成果及び戦略 1-2

【教育支援】

めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>

区役所やボランティア、地域資源による児童生徒の教育支援体制が整っている状態

戦略<中期的な取組の方向性>

- 発達障がい等のある児童生徒の行動面への支援や基礎学力の向上など各学校の課題に応じた教育活動を支援する。
- 地域資源(大学・商店街・企業等)と連携しながら、子育て世帯に関心の高い分野において、子どもに学習や体験ができる機会を提供する。

具体的取組 1-2-1

ニーズに応じた学校への支援

2決算額 7,496千円 3予算額 9,545千円 4予算額 9,651千円

当年度の取組内容

- 各学校と連携し、子どもや保護者にとって魅力ある学校づくりに向けた取組など(学校選択制等)をサポート、発信する。
- 障がい児童支援員が、学校を通じて、発達障がい児やその保護者等に対するサポートを実施する。
- 民間講師等を活用した学習支援、魅力ある学校づくり応援団制度を活用した学校支援等を実施する。

プロセス(過程)指標

<取組によりめざす指標>

ボランティアや民間講師等を活用した学習支援等により子どもの学習支援に繋がったと感じる学校:60%以上

【撤退・再構築基準】

30%未満

当年度の取組実績

- 学校選択制にかかる学校案内の作成(2,375部)・学校協議会新任委員研修等の実施・発達障がい精通した支援職員が、学校を通じて、発達障がい児やその保護者等に対するサポートを実施(約255回)・「教育活動サポート事業」による学校への支援(ボランティア配置・民間講師等による企画事業・課外学習)(21校)

プロセス(過程)指標の達成状況

・ボランティアや民間講師等を活用した学習支援等により子どもの学習支援に繋がったと感じる学校の割合 100%(配置校21校)

達成

目標の達成状況

取組の進捗状況

戦略に対する取組の有効性

課題と改善策

中間

年度末

達成

予定どおり実施

有効であり、継続して推進

-

前年度までの実績

(令和3年度)

- 学校選択制にかかる学校案内の作成・配付
- 障がい児童支援員が小中学校の特別支援学級に訪問・助言・研修(随時)
- 民間講師等を活用した学習支援やボランティアの配置
- 魅力ある学校づくり応援団制度の創設

アウトカム(成果)指標

<めざす状態を数値化した指標>

前年度

今年度

個別評価

全体評価

学校支援の取組が小中学校の教育内容充実につながっていると思う区民:令和7年度末までに70%以上

77.2%

73.2%

順調

順調

戦略の進捗状況

順調

戦略のアウトカム指標に対する有効性

課題

有効であり、継続して推進

今後の対応方向

-

-

具体的取組 1-2-2

子どもの学習・体験機会の充実

2決算額 494千円 3予算額 1,975千円 4予算額 1,975千円

当年度の取組内容

- 子どもたちにさまざまな学習や体験ができる機会を提供し、能力の育成・伸長を図る。

プロセス(過程)指標

<取組によりめざす指標>

参加者満足度:70%以上

【撤退・再構築基準】

50%以下

当年度の取組実績

- 子どもの学習・体験機会の充実(学力向上)事業の実施(8～12月)
- 子どもの学習・体験機会の充実(芸術文化)事業の実施(12月、1月)

プロセス(過程)指標の達成状況

・子どもの学習・体験機会の充実事業(学力向上)参加者満足度 100%

(芸術文化)参加者満足度 98%

達成

目標の達成状況

取組の進捗状況

戦略に対する取組の有効性

課題と改善策

中間

年度末

達成

予定どおり実施

有効であり、継続して推進

-

前年度までの実績

(令和3年度)

- 夏期・冬期集中学習会の実施
- 子どもの学習・体験機会の充実(芸術文化)事業の実施



経営課題 2 みんなが健康で安心して暮らせるまちづくり

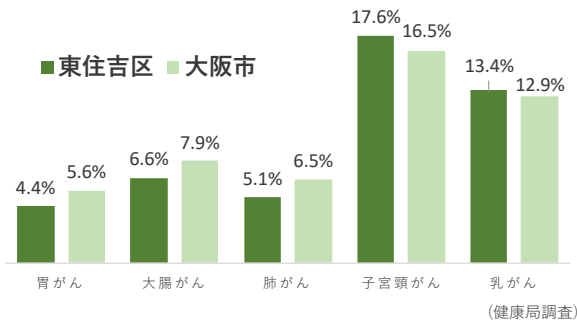
めざすべき将来像(最終的なめざす状態) < 概ね10~20年間を念頭に設定 >

健康づくり・防災・防犯に様々な対策がとられ、区民の意識が高く、みんなが健康で安心して暮らせるまち

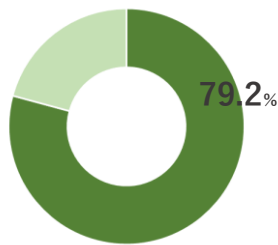
健康に暮らせるまちづくりの推進

現状 < 課題設定の根拠となる現状・データ >

がん検診受診率(令和元年度)



福祉・介護等の相談先が地域にあり安心を感じる区民



要因分析 < めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果 >

【健康づくり】

- がん検診の受診率が全市平均より下回っている状況が、がんの死亡率が高い要因の1つと考えられる。

【福祉相談ネットワークの強化】

- 地域とのつながりが少なく、支援を必要としながら適切な支援につながっていない人が多い。

課題 < 上記要因を解消するために必要なこと >

【健康づくり】

- 特定健康診査やがん検診の受診率向上を図り、区民自ら健康の保持増進に努めるよう意識を向上させる必要がある。

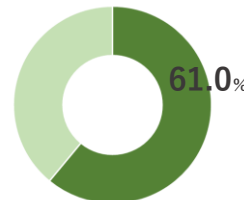
【福祉相談ネットワークの強化】

- 身近なところで気兼ねなく相談でき、必要な支援に的確につながるしくみを確立していくことが必要である。

安心して暮らせるまちづくりの推進

現状 < 課題設定の根拠となる現状・データ >

自助、共助ともに理解している区民



地域防災リーダー

平均年齢	64.6歳
女性割合	21.4%

(令和4年4月現在)

東住吉区内における主な街頭犯罪及び特殊詐欺発生件数

	ひったくり	路上強盗	自動車盗	車上ねらい	部品ねらい	オートバイ盗	自転車盗	特殊詐欺
R元	7	3	16	128	61	28	435	31
R2	5	0	11	138	79	26	301	15
R3	1	1	15	127	85	25	282	34

(大阪市の犯罪発生状況)

要因分析 < めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果 >

【防災力の強化】

- 自助、共助の考えや意識が十分に浸透しておらず、また、地域防災活動の担い手が高齢化し、女性の参画も十分とはいえない。

【防犯力の強化】

- ひったくり被害件数は減少しているものの、車関連犯罪(車上ねらい、部品ねらい)は高止まり状態である。

課題 < 上記要因を解消するために必要なこと >

【防災力の強化】

- 自らの力で防災・減災に繋がる行動ができるよう、全区民の防災・減災に対する意識の向上に取り組むとともに、地域の力で防災・減災に繋がる行動ができるよう、自主防災組織の機能強化を図る必要がある。

【防犯力の強化】

- 区民の防犯への関心を高めるとともに、犯罪抑止のため、警察署、地域と連携し継続的に取り組む必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

具体的な取組が健康づくり、防災・防犯にかかる区民の意識向上に繋がっており順調に進捗している。しかし具体的な取組の一部では新型コロナウイルス感染症の影響で未実施となった取組や目標に掲げた指標の未達成項目もあり、引き続き手法の検討や感染予防対策を講じ事業を実施することで区民の意識向上をめざし「みんなが健康で安心して暮らせるまち」の実現に取り組んでいく必要がある。

【保健福祉課】(福祉)・地域内での「声かけ」「見守り」「助け合い」「支え合い」を実感している区民の割合は59.3%で、昨年度から2.0%の増加(前回は1.7%の増加)となった。年々少しずつではあるが、地域でのつながりを実感している区民が増えている。しかしながら、令和4年度についても新型コロナウイルス感染症による地域事業の休止などの影響により、自宅に引きこもる方が少なからずいることなどから、今後も継続したケアを行っていく必要がある。また、相談内容についても的確に関係機関へつなぎ、情報共有を行いながら引き続き、地域におけるゆるやかな見守り活動の向上につなげていく必要がある。

(保健)・コロナ禍により事業実施が順調に行えたとは言えないが、一部事業を除き、概ね目標数値に達したと考える。来年度は新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類に移行することから、段階的にコロナ禍以前のペースで事業実施の再開が出来るものとする。

【区民企画課】・防災: 広報紙での防災情報発信や出前講座等により区民の防災意識の向上を図るとともに、地域が自主的・自律的に実施する防災訓練等への支援や小中学校との連携、初動にあたる職員への実践的な研修・訓練を実施した。引き続き、「自助」「共助」「公助」に関する取組を実施していくことで災害対応力の向上及び区民・職員における防災意識の向上に繋げていく。

・防犯: 区内における街頭犯罪については多少の増減はあるものの全体的には減少傾向にある。ただ、特殊詐欺被害については増加傾向にあり、引き続き警察署、地域と情報共有を密に行い被害軽減に努める。

めざす成果及び戦略 2-1

【健康に暮らせるまちづくりの推進】

めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>

区民が健康づくりに取り組み、福祉相談につながる状態

戦略<中期的な取組の方向性>

- 区民の主体的な活動と行政、企業等が協力して、地域の特性に応じた健康づくりを推進する。
- 関係機関と連携して、生活習慣病予防、認知症予防やフレイル予防などの介護予防に取り組む。
- 地域福祉のネットワークとして再構築された「地域支援システム」により、新たなニーズに対応する仕組みや体制を充実させることで、地域福祉活動を専門的に支援する機能を強化する。
- 地域のニーズを早期に発見し、的確な支援につないで連携して問題解決を進めるとともに、必要に応じて新たな事業や施策を提案していく仕組みを充実する。

具体的取組 2-1-1

健康づくり

2決算額 334千円 3予算額 1,345千円 4予算額 1,349千円

当年度の取組内容

- 地域健康講座時に、健診の必要性の啓発とがん予防の生活習慣病指導(禁煙指導を含む)の実施
- 食品・環境衛生事業者(理容所等)との連携や各種イベント開催時にがん検診・特定健康診査の受診勧奨の実施
- 「はつらつ脳活性化元気アップ教室」の開催及びリーダー育成
- みんなの健康展(1回)、食育フェスタ(1回)の開催

プロセス(過程)指標

<取組によりめざす指標>

- 特定健康診査の受診率・区保健福祉センターで実施される大腸がん、肺がん、乳がん検診の充足率が前年度を上回る。
- はつらつ脳活性化元気アップリーダーが参画する講座の開催:年250回以上
【撤退・再構築基準】
①②いずれも目標を下回った場合

当年度の取組実績

がん検診については、区広報紙「なでしこ」を中心に啓発広報活動を行った。はつらつ脳活性化元気アップリーダーが参画する講座は年260回開催した。また地域で活動するリーダーを対象に情報交換会を開催した。みんなの健康展、食育フェスタについては、コロナ禍の影響により、今年度も中止となった。

プロセス(過程)指標の達成状況

- 特定健康診査の受診率(21.2%→23.7%)
充足率は、乳がん検診を除き昨年度を上回った。
大腸がん(76.6%→83.6%) 肺がん(76.0%→83.4%)
乳がん(91.8%→90.6%) **達成**
- 感染防止対策を徹底し開催回数は260回であり、目標以上の回数を達成できた。

目標の達成状況	取組の進捗状況	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策
---------	---------	--------------	--------

中間

年度末	達成	おおむね予定どおり進捗	有効であり継続して推進	・今後も感染状況に応じた対策を講じ積極的な取り組みを行う。
-----	----	-------------	-------------	-------------------------------

前年度までの実績

- (令和3年度)
- 各種健診事業等でがん検診の受診勧奨や生活習慣病指導等の取組を実施
 - 元気アップリーダーに対しフォローアップ講座の開催

アウトカム(成果)指標 <めざす状態を数値化した指標>	前年度	今年度	個別評価	全体評価
健康に暮らせると思う区民: 令和7年度末までに50%以上	82.4	81.5	順調	順調
声かけ、見守り、助け合い、支え合いを実感している区民:令和7年度末までに54.8%以上	57.3%	59.3%	順調	
戦略の進捗状況		順調		

戦略のアウトカム指標に対する有効性	課題
有効であり、継続して推進	今年度も新型コロナウイルスの影響により、一部講座等の実施ができない状況にあった。
	今後の対応方向
	コロナ禍が終息に向かう時点で引き続き取組を再開していく方針である。

具体的取組 2-1-2

福祉相談ネットワークの強化

2決算額 49,979千円 3予算額 50,164千円 4予算額 50,618千円

当年度の取組内容

- 地域福祉サポーターを配置した地域相談窓口による相談対応の実施
- 地域資源利用や開発のネットワーク化、担い手養成、発掘の促進
- 要援護者名簿の拡充や整備を行うとともに見守り支援ネットワーク(福祉専門職)による、訪問や地域の見守り活動等の実施
- 住居環境の健全化に向けた支援の実施

プロセス(過程)指標

<取組によりめざす指標>

区内14地域の地域相談窓口の利用者満足度:50%以上

【撤退・再構築基準】

30%未満

当年度の取組実績

- 「地域相談窓口」の認知度向上のため広報紙等で周知活動を行った結果、相談や情報共有及び関係機関へのつなぎ件数34,213件(前年度比7.2%増)
- 見守り支援ネットワークによる同意確認訪問件数354件(前年度比8.1%減、回答率24.2%増)
- ライフライン事業者等からの通報による安否確認7件(前年度比1件減)
- 「物品等の堆積による不良な状態の適正化条例」に基づく条例該当:1件(前年度比±0)、条例非該当2件(前年度比1件減)

プロセス(過程)指標の達成状況

区内14地域の地域相談窓口の利用者満足度:79.5% **達成**

目標の達成状況	取組の進捗状況	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策
---------	---------	--------------	--------

中間

年度末	達成	予定どおり実施	有効であり、継続して推進	—
-----	----	---------	--------------	---

前年度までの実績

- (令和3年度)
- 地域福祉サポーターの配置(14地域)
 - 見守り支援ネットワーク(福祉専門職)の配置
 - 住居環境の健全化にむけた支援員(ソーシャルワーカー)の配置

めざす成果及び戦略 2-2

【安心して暮らせるまちづくりの推進】

めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>
防災・防犯に様々な対策がとられ、区民の意識も高い状態
戦略<中期的な取組の方向性>
<ul style="list-style-type: none"> 様々な機会に啓発を行い、防災意識の向上を図る。 地域防災への女性や若年層の参画を促進し、地域の実情や意向を反映した防災訓練の支援等を行うことにより、自主防災組織の機能強化を図る。 区災害対策本部の役割を全職員に認識させる取組を進め、初期初動及び災害応急対策の中核を担う3号動員職員を重点的に養成することにより、区役所全体の防災力の強化を図る。 区民の防犯意識を高めるとともに、犯罪類型に応じた迅速で効果的な対策を警察署、地域と連携して継続的に取り組む。

アウトカム(成果)指標 <めざす状態を数値化した指標>	前年度	今年度	個別評価	全体評価
「自助」「共助」ともに理解している区民： 令和7年度末までに70%以上	61.0%	62.1%	順調	順調
犯罪のない安心できるまちであると思う 区民：令和7年度末までに60%以上	57.7%	62.5%	順調	
戦略の進捗状況	順調			

戦略のアウトカム指標に対する有効性	課題
有効であり 継続して推進	防犯：街頭犯罪発生件数については、多少の増減はあるものの、全体的には減少傾向にある。ただ、特殊詐欺被害については増加傾向にあり引き続き警察署、地域と連携する必要がある
	今後の対応方向 防犯：街頭犯罪や特殊詐欺について、引き続き発生件数の減少にむけ、警察署、地域と素早い情報共有を行い被害軽減に取り組む

具体的取組 2-2-1

防災力の強化

2決算額	2,821千円	3予算額	3,216千円	4予算額	4,913千円
------	---------	------	---------	------	---------

当年度の取組内容

- 区民の防災意識を向上させる取組
広報紙等での情報発信、防災イベントの開催
- 自主防災組織の機能強化を図る取組
地域の自主的、自律的な防災訓練の支援、
地域防災リーダー防災学習の実施、女性の参画促進に向けた支援
- 区災害対策本部の機能強化を図る取組
実働的な内容を盛り込んだ訓練・研修による職員の意識向上

プロセス(過程)指標

<取組によりめざす指標>

- ①災害に対して備えをしている区民：80%以上
- ②有事の際の行動を理解している地域防災リーダー：70%以上
- ③災害時の参集基準や区災害対策本部の役割を理解している職員：95%以上
- 【撤退・再構築基準】
①50%未満②50%未満③85%未満

当年度の取組実績

- 区民の防災意識を向上させる取組
防災マップの区内全戸配布、広報紙での防災情報発信(6月・2月)、防災関連行事における啓発
- 自主防災組織の機能強化を図る取組
地域防災訓練の支援(12地域)、地域防災リーダー防災学習等(14地域)
- 区災害対策本部の機能強化を図る取組
職員研修(8月)、総合防災訓練(9月)、震災総合訓練(1・2月)、初期初動マニュアルの配付(3号動員職員・直近参集者・協力参集者)、携帯用マニュアルの配付(全職員)

プロセス(過程)指標の達成状況

- ①災害に対して備えをしている区民：73.2%
 - ②有事の際の行動を理解している地域防災リーダー：90.91%
 - ③災害時の参集基準や区災害対策本部の役割を理解している職員：91.7%
- 未達成

具体的取組 2-2-2

防犯力の強化

2決算額	1,308千円	3予算額	1,819千円	4予算額	1,775千円
------	---------	------	---------	------	---------

当年度の取組内容

- 犯罪類型に応じた警察署、地域と連携した防犯活動
ひたたくり防止カバー取付キャンペーン(60回)
シリンダー錠取付キャンペーン(20回)、こども安全講習の実施(85回)
街頭やコンビニ等での特殊詐欺防止啓発(年金支払日)
- 青色防犯パトロールカー、自転車による巡回(随時)
- 広報紙、ラビット通信、ホームページ、公式SNS等による情報発信(随時)

プロセス(過程)指標

<取組によりめざす指標>

- 区役所が警察署、地域と連携して実施する防犯に関する取組が、犯罪抑止に役立つと考える区民：80%以上
- 【撤退・再構築基準】
50%未満

当年度の取組実績

- 犯罪類型に応じた警察署、地域と連携した防犯活動
ひたたくりカバー取付キャンペーン(48回)、シリンダー錠取付キャンペーン(26回)、こども安全講習の実施(87回)
街頭や地域事業での特殊詐欺被害防止啓発(街頭で年金支給日6回)、(地域3回)
- 青色防犯パトロール車、自転車による巡回(随時)
- 広報紙、ラビット通信、ホームページ、公式SNS等による情報発信(随時)

プロセス(過程)指標の達成状況

- 区役所が警察署、地域と連携して実施する防犯に関する取組が、犯罪抑止に役立つと考える区民：98.2%(独自アンケート)
- 達成

目標の達成状況	取組の進捗状況	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策
---------	---------	--------------	--------

中間

年度末	未達成	予定どおり実施しなかった	有効であり、継続して推進	新型コロナウイルスの感染状況に応じた各種取組の実施方法の検討
-----	-----	--------------	--------------	--------------------------------

前年度までの実績

- (令和3年度)
- 防災マップ等の広報紙での情報発信、小中学校における防災授業等の実施支援
- 防災イベント(新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止)
- 地域防災訓練等の実施支援、地域防災リーダー研修の実施
- 職員研修や職員の参加する防災訓練の実施

目標の達成状況	取組の進捗状況	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策
---------	---------	--------------	--------

中間

年度末	達成	予定どおり実施	有効であり、継続して実施	今後も引き続き防犯活動の取組を実施する。
-----	----	---------	--------------	----------------------

前年度までの実績

- (令和3年度)
- 犯罪類型に応じた警察署、地域と連携した防犯活動、ひたたくり防止カバー取付キャンペーン(10月以降実施)、シリンダー錠取付キャンペーン(10月以降実施)、こども安全講習(7月以降実施)
- 青色防犯パトロールカー、自転車による巡回(随時)
- 広報紙、ラビット通信、ホームページ、公式SNS等による情報発信(随時)



経営課題 3 みんながつながるまちづくり

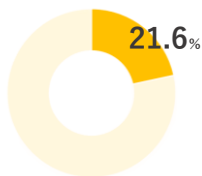
めざすべき将来像(最終的なめざす状態) <概ね10~20年間を念頭に設定>

区民相互が交流と助け合いを行い、地域の自主的なまちづくり活動が活発に行われている、みんながつながるまち

区民相互のつながりづくりへの支援

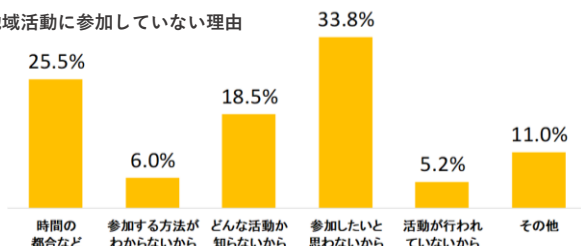
現状 <課題設定の根拠となる現状・データ>

地域活動に参加
したことがある区民



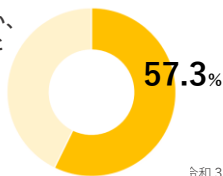
(令和元年度区政に関する区民アンケート)

地域活動に参加していない理由



(令和元年度区政に関する区民アンケート)

声かけ、見守り、助け合い、
支え合いが行われていると
感じる区民



令和3年度第1回区民アンケート)

要因分析 <めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果>

【区民相互の交流活動への支援】

- ・人と人とのつながりの希薄化がみられる。
- ・担い手・参加者が固定化している。

【区民相互の助け合い活動への支援】

- ・日常生活での「困りごと」に対し、手助けを必要としている人が多数いる。

課題 <上記要因を解消するために必要なこと>

【区民相互の交流活動への支援】

- ・行政だけでなく、より多くの区民や様々な活動主体のまちづくり活動への参画を促すため、地域活動に関する効果的な発信や交流の場の提供等を行う必要がある。

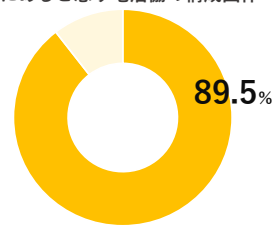
【区民相互の助け合い活動への支援】

- ・身近なところで気兼ねなく相談でき、必要な支援に的確につながる仕組みを確立していくことが求められる。

地域活動協議会による自律的な地域運営の促進 (改革の柱4-1)

現状 <課題設定の根拠となる現状・データ>

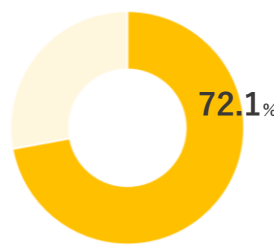
地域特性に即した地域課題の解決に
向けた取組が自律的に進められている
状態にあると思う地活協の構成団体



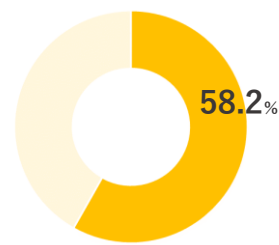
(令和2年度地域団体へのアンケート)

地域活動協議会に求められている
準行政的機能を認識している
地活協の構成団体

地域活動協議会に求められている
総意形成機能を認識している
地活協の構成団体



(令和元年度地域団体へのアンケート)



(令和元年度地域団体へのアンケート)

要因分析 <めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果>

【地域の自主的なまちづくり活動への支援】

- ・地活協が形成され数年が経過し、地域により自律度にバラつきが生じている。
- ・地活協の意義や求められる機能について、地域により理解を促進するための取組に差がある。

課題 <上記要因を解消するために必要なこと>

【地域の自主的なまちづくり活動への支援】

- ・全地域一律の支援ではなく、地域の実情に即しながら、先進的な地域・活性化している地域などのモデルとなりうる地域の支援を行いながら、全地域への波及効果も含めて全地活協のレベルの底上げを図っていくよう支援を行う必要がある。
- ・地活協の意義や求められる機能について理解がさらに向上されるよう、積極的な働きかけや情報発信を行う必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

区民相互のつながりづくりや地域活動協議会等の自律的な地域運営の促進にかかるサポートを通じて、区民のまちづくり活動への関心の向上に繋がっており、順調に進捗している。参加者の満足度や評価は得られているが今後はより多くの方に参加してもらうことで、「みんながつながるまちづくり」の実現に取り組む。また地域の実情をより把握することに努め、ニーズに即したきめ細やかな支援を行うことで自律的な地域運営の実現に繋げていく。

【区企企画課】

地活協への効果的な支援のため、地域の実情に即した個別の支援を行うことで地活協全体の底上げを図ってきた。引き続き活動が安定したものとなるよう人材の育成、発掘につながる支援や、地活協に求められる準行政的機能や総意形成機能についての理解を促進する支援を継続する。

【保健福祉課】

地域における身近な困りごと相談については14地域に相談窓口を設置し、相談内容により適切な関係機関への「つなぎ」を行っている。また、高齢者食事サービス事業については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、昨年度を上回る利用状況(令和4年度参加者数12,556人)となり、地域での福祉活動推進の向上につながった。今後も地域での助け合い活動が活発に行われていくための活動支援を継続して行っていく必要がある。

めざす成果及び戦略 3-1 区民相互のつながりづくりへの支援

めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>
区民相互が活発に交流し、地域福祉活動等の助け合いを行っている状態
戦略<中期的な取組の方向性>
<ul style="list-style-type: none"> まちづくりに関する活動をサポートし、情報発信を強化することで、区民のまちづくり活動への関心を高め、参加を促す。 地域の方々による自主的な福祉活動推進の機運を高め、新たな担い手を発掘する。

アウトカム(成果)指標 <めざす状態を数値化した指標>	前年度	今年度	個別評価	全体評価
まちづくりの活動が、地域団体等との連携・協働により進められていると感じる区民：令和7年度未までに50%以上	89.9%	90.1%	順調	順調
戦略の進捗状況			順調	
戦略のアウトカム指標に対する有効性	課題			
有効であり、継続して推進	-			
	今後の対応方向			
-				

具体的取組 3-1-1 区民相互の交流活動への支援	
2決算額 3,683千円	3予算額 9,991千円 4予算額 10,613千円
当年度の取組内容	
<ul style="list-style-type: none"> 様々な地域団体や企業等の参画のもと地域ニーズに対応した手法で事業を実施し、区民相互の交流活動をサポートする。(区民フェスティバル(10月)、区文化祭(12月)、区民スポーツイベント等(通年)) あらゆる世代が参加する生涯学習活動を推進する(区内大学等共催講座(8月)、のびのびワクワク体験広場(11月)、学校体育施設開放(20校)) 	

具体的取組 3-1-2 区民相互の助け合い活動への支援	
2決算額 1,852千円	3予算額 4,225千円 4予算額 4,080千円
当年度の取組内容	
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の健康増進と孤独感の解消、地域社会との交流を目的に、ボランティアが在宅のひとり暮らし高齢者や寝たきり高齢者等に、地域施設での会食等の世話を実施 認知症高齢者等徘徊者の保護のため、行方不明者情報を協力者にメール配信するシステムの活用 	

プロセス(過程)指標 <取組によりめざす指標>
「次も参加したい」と答えた参加者：70%以上
【撤退・再構築基準】 50%未満

プロセス(過程)指標 <取組によりめざす指標>
「満足している」と答えた高齢者食事サービスの利用者：70%以上
【撤退・再構築基準】 60%未満

当年度の取組実績
<ul style="list-style-type: none"> 区民フェスティバルは10月16日に実施 区民スポーツイベントについては通年開催で、当初予定の6競技及び区民レクリエーション(ハイキング11月3日)に実施 学校体育施設開放(20校)・区生涯学習文化祭の開催(11月27日) のびのびわくわくスタンプラリーの開催(10月～11月) 生涯学習ルーム作品を区民ギャラリーで展示(前期：11月～12月 後期：2月～3月)

当年度の取組実績
<ul style="list-style-type: none"> 「高齢者食事サービス」の利用状況12,556人、前年度比：32.5%増 「要援護者名簿」の提供状況、令和4年度の提供件数4,709件、前年度比：1.9%減 認知症高齢者等徘徊者の保護に向けた行方不明者情報のメール配信件数15件(前年度から4件増)

プロセス(過程)指標の達成状況	
独自アンケートによる「次も参加したい」と答えた参加者：98.4%	達成

プロセス(過程)指標の達成状況	
「満足している」と答えた高齢者食事サービスの利用者：96.9%	達成

目標の達成状況	取組の進捗状況	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策
中間	中間	中間	中間
年度末	達成	予定通り実施	有効であり継続して推進
			区民フェスティバルのステージ出演組数の増加を検討する必要がある

目標の達成状況	取組の進捗状況	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策
中間	中間	中間	中間
年度末	達成	予定どおり実施	有効であり、継続して推進
			-

前年度までの実績
(令和3年度)
<ul style="list-style-type: none"> 区民スポーツイベント等(11月以降実施) 学校体育施設開放(20校) 区民フェスティバル、区内大学等共催講座は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止 のびのびわくわくスタンプラリーの開催(12月～2月) 生涯学習ルーム作品を区民ギャラリーで展示(2、3月)

前年度までの実績
(令和3年度)
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者食事サービスの実施(14地域) 認知症高齢者等徘徊者を保護するシステムを運用

めざす成果及び戦略 3-2 地域活動協議会による自律的な地域運営の促進(改革の柱4-1)

めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>

防災、防犯など安心・安全なまちづくりにかかる取組及び地域福祉、子育て支援、地域コミュニティづくりなどその他地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態

戦略<中期的な取組の方向性>

- 地活協のめざすべき姿に向けて、地域の実情に即したきめ細やかな支援を行い、仕組みの定着を図ることで、より多くの住民参加による自律的な地域運営を実現する。

アウトカム(成果)指標 <めざす状態を数値化した指標>		前年度	今年度	個別評価	全体評価
地活協の構成団体が地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合：令和7年度末までに90%以上		90.1%	89.9%	順調	順調
戦略の進捗状況		順調			
戦略のアウトカム指標に対する有効性	課題				
有効であり、継続して推進	—				
	今後の対応方向				
	—				

具体的取組 3-2-1 地域の自主的なまちづくり活動への支援

2決算額 33,188千円 3予算額 43,208千円 4予算額 43,459千円

当年度の取組内容

- 中間支援組織による地域活動協議会への支援
地域の実情やニーズに合わせた広報等の実施
地域の担い手の知識・技術の習得・向上の促進策の実施
新たな地域活動の担い手の発掘、連携やスキルの継承 等
- 地活協への連絡会議の開催(11回)

プロセス(過程)指標

<取組によりめざす指標>

ニーズに即した支援が実施されていると感じる地活協の構成団体：80%以上

【撤退・再構築基準】

50%未満

当年度の取組実績

地活協の活動状況や自律の状況把握を通じて、地域の実情に即した支援を専門的知識のある事業者（中間支援組織）により行い、より多くの住民参加を促した。
地活協への連絡会議の開催（11回）

プロセス(過程)指標の達成状況

ニーズに即した支援が実施されていると感じる地活協の構成団体：69.6% 未達成

目標の達成状況

取組の進捗状況

戦略に対する取組の有効性

課題と改善策

中間

年度末	未達成	予定どおり実施	有効であり、継続して推進	自律的かつ継続的な活動となるよう、人材育成につながる拡大支援を行う。
-----	-----	---------	--------------	------------------------------------

前年度までの実績

(令和3年度)

- 地活協の活動内容や補助金等を区ホームページで公表
- 中間支援組織による、地域への個別訪問支援の実施
- 地活協への連絡会議の開催(11回)



経営課題 4 区民と共に創るまちづくり

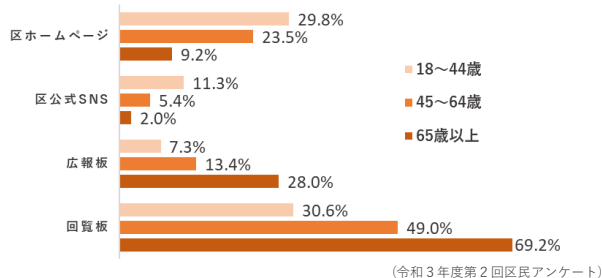
めざすべき将来像(最終的なめざす状態) <概ね10~20年間を念頭に設定>

区民の区政への関心が高く、区民の意見を反映した区政運営がされるまち

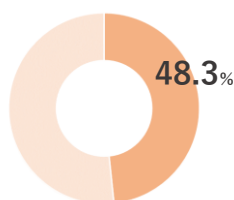
区政情報の広報

現状 <課題設定の根拠となる現状・データ>

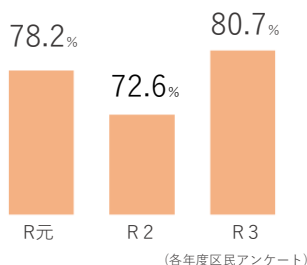
広報紙以外の区政情報の情報源



区政に対し関心が高まったと感じる区民



東住吉区に魅力を感じる区民



要因分析 <めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果>

【広報媒体と内容の充実】 【区の魅力発信】

- 区政情報の入手方法、必要とする情報等が年代により大きく異なる。
- 区政に対し関心が高まったと感じる区民は約5割にとどまっている。

課題 <上記要因を解消するために必要なこと>

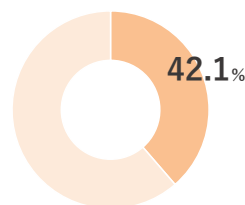
【広報媒体と内容の充実】 【区の魅力発信】

- 区政に関心が薄い区民に対しても、区政情報を届けられるよう、簡潔でわかりやすく、かつ親しみやすい情報発信を行う必要がある。
- 年代に即した広報戦略を立てる必要があり、各種媒体の情報を相互に連携させるクロスメディア手法を用い情報発信力の強化に取り組む必要がある。

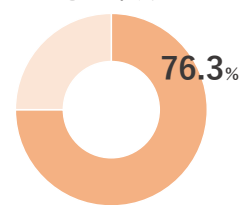
区民の意見を反映した区政運営の実現

現状 <課題設定の根拠となる現状・データ>

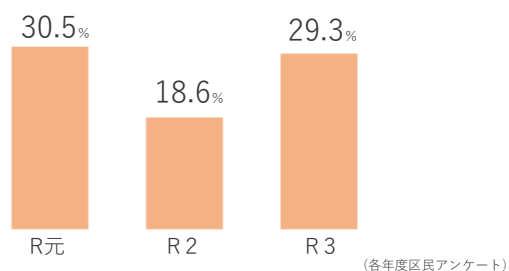
様々な取り組みを通じて区民の意見やニーズを把握していると感じる区民



区役所は区民に身近な窓口として適切に対応したと感じる区民



区政会議を知っている区民



要因分析 <めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果>

【相談調整機能の充実】

- 区役所が区民の意見やニーズを把握していると感じる区民が少ない。
- 【区民等の参画と協働】
- 区政会議等により、区民の意見を区政に反映していることが伝わっていない。

課題 <上記要因を解消するために必要なこと>

【相談調整機能の充実】

- 様々な機会に区民の意見やニーズを的確に把握し、区の実情や特性に即した施策・事業を総合的に展開していく必要がある。
- 【区民等の参画と協働】
- 区政会議等により、区民の意見を区政に反映し、反映の状況を積極的に発信する必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

区の魅力向上の発信については一定の成果が出ており、東住吉区に魅力を感じる区民の割合も増えてきている。一方で区役所の情報が伝わりやすくなったと感じる区民の割合については不十分であり、区政に関心が薄い区民に対しても情報を十分届けられるよう発信の方法について検討が必要である。区民のニーズを把握し区政運営の改善に繋げているか、事業に関わる区民のニーズの把握はもちろん事業に直接関わっていない区民のニーズをどのように把握するかについても検討が必要である。区政会議の認知度についても事業の内容や改善点のフィードバック等適切に発信していく。

【総務課(広聴・広報)】

- 全戸配布している広報紙をより魅力的な内容とし、区政に関心が薄い区民に対しても区政情報が届けられるよう写真やイラストを効果的に活用し、手にとってもらえるような簡潔でわかりやすくかつ親しみやすい紙面づくりを行っている、またTwitterなどの公式SNSを活用しクロスメディア手法による年代に即した区政情報の発信を継続的に行ってきた。
- 区民の意見やニーズを把握し快適で利用しやすい窓口での対応の向上を図るとともに、区民からの相談や要望に引き続き迅速かつ適切に対応していく。

めざす成果及び戦略 4-1 区政情報の広報

めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>

区民の区政への関心が高まっている状態

戦略<中期的な取組の方向性>

- 広報紙を手にとって読みたくなるような魅力的な誌面とし、区内の全世帯、全事業所への全戸配布の継続及び、Web情報を活用し区民が必要とする情報を届ける。
- 区の公式SNS等の認知度を向上させ、紙媒体とWeb情報を相互に連携するなど、さまざまな媒体を用いて必要な情報を届ける。
- 広報に関する区職員の意識を向上させ、各課の情報受発信力を強化する。
- 区の魅力を向上させ、区民だけではなく、区外の方に対しても区の魅力を発信し、区の認知度を上げる。

具体的取組 4-1-1

広報媒体と内容の充実

2決算額 19,427千円 3予算額 25,207千円 4予算額 26,187千円

当年度の取組内容

- 区内の全世帯、全事業所への広報紙の全戸配布を継続し、区民に直接行政情報を届ける。
- 子育て世帯に向けた情報発信サイトLINEの登録者数の増加
- 広報紙やホームページと、区の公式SNS等を連携させ、相互の情報をクロスメディア手法(各媒体から相互に情報を利用することが可能)により効果的に発信
- 区民が親しみやすく伝わりやすい行政情報の発信(写真の多用や解り易い文章)に努める。

プロセス(過程)指標

<取組によりめざす指標>

区役所の情報が伝わりやすくなったと感じる区民：60%以上

【撤退・再構築基準】

30%未満

当年度の取組実績

- 区内の全世帯、全事業所に広報紙の全戸配布を継続
- 子育て層に向けた情報発信サイトLINEの登録者数の増加：186件
- 広報紙やホームページと、区の公式SNS等を連携させるほか、今年度より近鉄針中野駅のデジタルサイネージにより区政情報を効果的に発信。
- 新型コロナウイルス関連情報についてオリジナルポスターやホームページを作成し周知した。

プロセス(過程)指標の達成状況

区役所の情報が伝わりやすくなったと感じる区民 48.4% 未達成

目標の達成状況	取組の進捗状況	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策

中間

年度末	未達成	予定どおり実施	有効であり、継続して推進	広報紙やホームページと区役所公式SNS等を連携させ、あらゆる年代に即した区政情報の発信を継続的に行う

前年度までの実績

- 広報紙記事での積極的な二次元コードの活用
- 全世帯・全事業所へ配布開始(R2.5~)
- 区マスコットキャラクター「なっぴー」のLINEスタンプを作成(R元.9~)
- 広報紙に子どもの写真コーナーを掲載(H30.5~)
- 子育て層に向けた情報発信サイトLINEの開設(H29.4~)

アウトカム(成果)指標 <めざす状態を数値化した指標>	前年度	今年度	個別評価	全体評価
区政に対し関心が高まったと感じる区民：令和7年度末までに60%以上	48.4	43.9	順調でない	順調でない
戦略の進捗状況		順調でない		

戦略のアウトカム指標に対する有効性	課題
有効であり、継続して推進	—
	今後の対応方向
	—

具体的取組 4-1-2

区の魅力向上及び発信

2決算額 7,482千円 3予算額 1,404千円 4予算額 1,132千円

当年度の取組内容

- 東住吉区まちづくりビジョンの推進
- シェアサイクル実証実験の実施
- 矢田南部地域におけるまちづくりの取組の実施
- 大学や企業等と連携した取組の実施

プロセス(過程)指標

<取組によりめざす指標>

東住吉区に魅力を感じる区民：80%以上

【撤退・再構築基準】

50%未満

当年度の取組実績

- 東住吉区まちづくりビジョンの推進(針中野駅・駒川中野駅周辺エリア活性化、農とスポーツのある健康的な暮らしの発信等)
- シェアサイクル実証実験の実施
- 矢田南部地域における開発事業者による工事着手
- 大学や企業等との連携協定に基づく取組の実施

プロセス(過程)指標の達成状況

東住吉区に魅力を感じる区民：80.1% 達成

目標の達成状況	取組の進捗状況	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策

中間

年度末	達成	予定どおり実施	有効であり、継続して推進	—

前年度までの実績

- (令和3年度)
- 東住吉区まちづくりビジョンの推進
 - シェアサイクル実証実験の開始(R3.11~)
 - 矢田南部地域における開発事業にかかる基本協定及び売買契約の締結
 - 大学や企業等と連携した取組の実施

めざす成果及び戦略 4-2 区民の意見を反映した区政運営の実現

めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>		アウトカム(成果)指標 <めざす状態を数値化した指標>			
区民の意見を反映した区政運営ができている状態		前年度	今年度	個別評価	全体評価
		24.9	22.3	順調でない	順調でない
戦略<中期的な取組の方向性>		戦略の進捗状況			
<ul style="list-style-type: none"> 区民ニーズを的確に把握できる仕組みを構築する。 快適で利用しやすい区役所となるよう窓口での対応の向上を図るとともに、区民からの相談や要望に迅速かつ適切に対応する。 		順調でない			
<ul style="list-style-type: none"> 区民ニーズを的確に把握できる仕組みを構築する。 快適で利用しやすい区役所となるよう窓口での対応の向上を図るとともに、区民からの相談や要望に迅速かつ適切に対応する。 		戦略のアウトカム指標に対する有効性		課題	
		有効であり継続して推進		<p>広報紙や区の公式SNS等で区の公式SNS等で区政会議の情報を発信してきた。様々な広報媒体を活用する必要がある。</p> <p>今後の対応方向</p> <p>様々な広報媒体を活用し、あらゆる年代に向けてわかりやすい区政情報の発信に努める。</p>	
具体的取組4-2-1 相談調整機能の充実		具体的取組4-2-2		区民等の参画と協働	
2決算額	387千円	3予算額	561千円	4予算額	526千円
2決算額	1,379千円	3予算額	3,238千円	4予算額	3,088千円
当年度の取組内容 <ul style="list-style-type: none"> 区民から相談や要望を受け付け、局、事業所等と連携し、迅速かつ適切に対応する。(市民の声への対応、各種相談事業の実施、行政連絡調整会議の開催) 職員の対応力の向上に向けたスキルアップ研修の実施 「東住吉区おもてなしプロジェクト」を継続実施し、各課を横断した全職員の意識向上の取組を推進 		当年度の取組内容 <ul style="list-style-type: none"> 区政会議の開催(本会議3回、3部会各2回) 区民アンケートの実施 			
プロセス(過程)指標 <取組によりめざす指標>		プロセス(過程)指標 <取組によりめざす指標>			
区役所が適切に対応したと思う区民：70%以上		区政会議を知っている区民：30%以上			
【撤退・再構築基準】 50%未満		【撤退・再構築基準】 15%未満			
当年度の取組実績 <ul style="list-style-type: none"> 市民の声：371件 法律相談(弁護士)：44回 法律相談(司法書士)：12回 税務相談：9回 行政相談：12回 不動産相談：7回 相続遺言帰化相談(行政書士)：11回 		当年度の取組実績 <ul style="list-style-type: none"> 区政会議の開催(全体会議3回・部会2回) 3回目の全体会議でオンライン会議を開催 区政会議の認知度を上げるため、区の公式SNSでの情報発信やオリジナルポスターを作成し広報板に掲示 			
プロセス(過程)指標の達成状況		プロセス(過程)指標の達成状況			
区役所は区民に身近な窓口として適切に対応したと感じる区民：70.3%		達成		区政会議を知っている区民：22.5%	
				未達成	
目標の達成状況	取組の進捗状況	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策		
中間					
年度末	達成	予定どおり実施	有効であり、継続して推進	-	
前年度までの実績		前年度までの実績			
(令和3年度) <ul style="list-style-type: none"> 市民の声(参考：令和3年度257件) 法律相談(弁護士)：月4回、法律相談(司法書士)：月1回 税務・行政・不動産相談：月1回 相続遺言帰化相談(行政書士)：月1回 職員の対応力向上に向けたスキルアップ研修の実施 		(令和3年度) <ul style="list-style-type: none"> 区政会議：本会議4回2部会各1回 区民アンケートの実施 			

「市政改革プラン3.1」に基づく取組等

取組項目 1 国民健康保険料の収納率向上(改革の柱 3 - 3 (4))

取組の方針・目標内容		当年度の取組内容	
(趣旨・目的) 被保険者の負担の公平性及び保険料収入の確保		(取組の内容) 現年度滞納者を中心に納付督促及び財産調査を実施 差押予告の送付・滞納処分の強化 新規加入者への保険証交付時に口座振替勧奨	
(取組の概要) きめ細やかな納付相談や納付督促に取り組むとともに、負担の公平性・公正性を確保する観点から、支払い能力のある未納世帯に対して滞納処分を行う。		(目標) 前年度以上の収納率(現年賦課分)を確保 3年度 92.66%(目標) 2年度 92.66% 元年度 91.59%	
中間振り返り	取組内容の実施見込み	課題と改善策	
	目標の達成見込み		
自己評価	当年度の取組実績	現年度滞納者を中心に納付督促及び財産調査を実施するとともに、差押予告の送付・滞納処分の強化及び口座振替勧奨に取り組んだ	達成
	目標の達成状況	令和5年3月現在目標収納率確保の見込み。5月末の出納閉鎖に向け目標収納率達成に向け引き続きとりくむ。	

取組項目 2 次代を担う職員の育成(改革の柱 5 - 1)

取組の方針・目標内容		当年度の取組内容	
(趣旨・目的) 職員が組織における自らの役割を理解し、自主的・主体的にリーダーシップを発揮できるよう育成・支援を行い、専門性を向上し、チャレンジを促すことを通じて職員の生産性の向上をめざす。この取組によって、市民サービスの向上を図るとともに、区民が快適で利用しやすい区役所となるよう、引き続き窓口での対応の向上を図る。		(取組の内容) ① 「東住吉区おもてなしプロジェクト」を継続実施し、各課を横断した全職員の意識向上の取組を推進 ② 職員の対応力向上に向けたスキルアップ研修の実施	
(取組の概要) ① 「東住吉区おもてなしプロジェクト」の実施 ② 市民サービス向上のために、自らの役割を理解し、自主的・主体的に業務改善や問題解決に取り組める職員を育成する研修の実施		(目標) ・「状況に応じて、リーダーシップを発揮している」かつ「困難な問題にも積極的にチャレンジし、自己成長につなげたい」に、「思う」と回答した職員：令和4年度10% ・「区役所来庁者等に対するサービスの格付け結果」において、☆☆(民間の窓口サービス平均的なレベルを上回るレベル)以上を獲得する。	
中間振り返り	取組内容の実施見込み	課題と改善策	
	目標の達成見込み		
自己評価	当年度の取組実績	・「東住吉区おもてなしプロジェクト」の継続実施 ・全職員を対象としたe-ラーニングによる職員の対応力向上に向けたスキルアップ研修の実施	達成
	目標の達成状況	・「状況に応じて、リーダーシップを発揮している」かつ「困難な問題にも積極的にチャレンジし、自己成長につなげたい」に、「思う」と回答した職員：(57.5)% ・「区役所来庁者等に対するサービスの格付け結果」において、☆☆を獲得	

「市政改革プラン3.1」に基づく取組等

取組項目 3		働きやすい職場環境づくり(改革の柱 6-1)		
取組の方針・目標内容		当年度の取組内容		
(趣旨・目的) 多様化する職員のニーズを把握しながら、柔軟な働き方の実現や職場実態に応じた働きやすい環境整備によるワーク・ライフ・バランスの推進を図る。		(取組の内容) ① ワーク・ライフ・バランス推進期間の設定及び超過勤務の縮減(ノー残業デーの追加など) ② ワーク・ライフ・バランス推進委員会を通じた育児・介護・病気の治療と仕事の両立にかかる各種制度の周知徹底及び啓発		
(取組の概要) ① 長時間労働の是正 ② 働きやすい職場環境づくり		(目標) 職員 1 人あたりの時間外勤務の年間平均時間数：令和 4 年度131時間以下		
(目標) 職員 1 人あたりの時間外勤務の年間平均時間数：令和 4 年度131時間以下				
中間振り返り	取組内容の実施見込み	課題と改善策		
	目標の達成見込み			
自己評価	当年度の取組実績 ・ワーク・ライフ・バランス推進期間の設定及び超過勤務の縮減(ノー残業デーの追加など) ・ワーク・ライフ・バランス推進委員会を通じた育児・介護・病気の治療と仕事の両立にかかる各種制度の周知徹底及び啓発	達成	課題と改善策	
	目標の達成状況 職員 1 人あたりの時間外勤務の年間平均時間数：113時間			